

## 今週（7月24日から7月28日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、レート水準が低位で推移する展開となった。

無担保コールO/N物は、オファーサイドの一部に積極的な運用姿勢が見られた事で、24日から26日までは▲0.08～▲0.075%近辺での出会いが中心となった。27日以降はビッドサイドにも調達意欲の高まりが見られ始めた事で、レート水準は緩やかに上昇する展開となり、28日には週末3日積み要因も加わり、一段と上昇した。

ターム物は、ショートタームを中心に▲0.075～▲0.045%程度で出会いが散見された。

日銀当座預金残高は、538兆円程度からスタートし、財政資金の払いや国債買入オペなどの影響により、540兆円程度まで増加する見込みとなった。

27日から28日にかけて行われた金融政策決定会合では、長短金利操作の運用について柔軟化が決定され、長期金利の変動幅は、従来からの「±0.5%程度」から変えず、指値オペの利回り水準をこれまでの、10年物国債金利について0.5%としていたものを、1.0%へと変更された。

### ●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.10～▲0.08%のレンジでの取引となった。足元GCは業者の在庫ファンディングニーズが強く、安定した推移となった。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、業者在庫の多さや週後半の入札結果を受けて、軟調に推移する展開となった。

27日に実施された3M物の入札では、按分落札利回り▲0.0962%、平均落札利回り▲0.1018%と事前予想通り無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.1018～▲0.10%での出会いが見られるなど堅調に推移した。

短国買入オペは、25日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回較差+0.018%、平均利回較差+0.019%と弱めの結果となった。

### ●CP市場

今週のCP市場は、月末週にあたり複数の業態で大型発行が見られたものの、週間の金額ベースでは、若干の償還超のマーケットとなった。

市場発行残高は、週を通して27兆円台後半で推移し、6月末から7月27日時点までで4兆円程度の増加となっている。

発行レートについては、日銀適格担保銘柄の3M以内の案件については、0%近辺での出会いが中心となった。一方でロングターム物の案件では、引き続き日銀による政策変更の警戒感からかレート水準にばらつきがみられた。

7月26日に行われたCP等買入オペは、事前予定通り4000億円でオファーされた。結果は、按分レート0.000%、平均落札レート0.005%と前回比(按分0.002%、平均0.011%)で按分、平均ともに低下した。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
7/24 (月)	32,700.94	0.455	141.78	△ 0.073	△ 0.100	5,383,400
7/25 (火)	32,682.51	0.460	141.53	△ 0.074	△ 0.097	5,397,300
7/26 (水)	32,668.34	0.444	141.05	△ 0.073	△ 0.097	5,391,400
7/27 (木)	32,891.16	0.435	140.30	△ 0.071	△ 0.097	5,398,900
7/28 (金)	32,759.23	0.545	139.43	△ 0.059	△ 0.099	5,405,700

# 来週（7月31日から8月4日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/31 (月)	6月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 6月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 6月の住宅着工統計(国土交通省 14:00) 7月の消費動向調査(内閣府 14:00)				7月のシカゴPM景況感指数 4-6月期のユーロ圏GDP1次速報 7月のユーロ圏消費者物価指数速報値
8/1 (火)	6月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 6月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	10Y 27,000億円 8/2発行			7月のISM製造業景況指数 6月の米建設支出
8/2 (水)	金融政策決定会合議事要旨(6月15・16日分 8:50) 7月のマネタリーベース(日銀 8:50) 財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00)				
8/3 (木)	8月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	10Y物価連動 2,500億円 8/4発行	交付税借入 12,000億円 8/15借入		英中銀MPC結果発表 7月のISM非製造業景況指数 6月の米製造業新規受注・出荷・在庫
8/4 (金)		TB3M 58,000億円 8/7発行			7月の米雇用統計

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/31 (月)	600	11,400	12,000	国債買入 国債補完 CP買入	46,600 ▲1,800	8,400 4,000	57,200	69,200	TB3M発行▲58,000償還62,000 交付税借入▲13,000期日13,000
8/1 (火)	500	▲33,500	▲33,000				0	▲33,000	2Y発行▲29,000償還15,600
8/2 (水)	500	▲78,000	▲77,500	全店共通	▲9,000		▲9,000	▲86,500	年金保険料揚げ、法人税・消費税揚げ 申告所得税揚げ 10Y発行▲27,000
8/3 (木)	▲500	2,000	1,500				0	1,500	
8/4 (金)	▲300	▲2,500	▲2,800				0	▲2,800	10Y物価連動発行▲2,500 交付税借入▲12,000期日12,000
週間合計	800	▲100,600	▲99,800	—	35,800	12,400	48,200	▲51,600	

7/31は日銀予想、8/1以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、一部で積極的な調達が見られていることもあり、レート水準は上昇していくことが予想される。一方で、他のマーケット次第で参加者のスタンスに変化が出る可能性も考えられるため、動向に注視したい。債券レポ GC T/N物は、▲0.10～▲0.08%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、8月4日に3M物の入札実施が予定されている。また、1日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、月初で落ち着いたマーケットが想定されるが、8月中旬にお盆の連休が控えていることから、前倒しでの発行が増加するか注目される。

主要なイベントは、国内では31日に6月の鉱工業生産・出荷・在庫速報、8月1日に6月の完全失業率、有効求人倍率、海外では、31日に4-6月期のユーロ圏GDP1次速報、7月のユーロ圏消費者物価指数速報値、8月1日に7月のISM製造業景況指数、3日に英中銀MPC結果発表、7月のISM非製造業景況指数、4日に7月の米雇用統計などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入